

日本昔話に表象される世界観と遊び

The Understanding of the World and Play in the Folk Tales in Japan

1K08B009-4 新井敦子

指導教員 主査 石井昌幸 先生

副査 寒川恒夫 先生

【はじめに】

本研究では、日本昔話においてかつての人々がどのような世界観を持っていたかを明らかにすることを目的とする。

日本昔話は伝承文学であり、民衆によって作られ、語り継がれて来た。そのために、人々の知識や文化が色濃く反映されており、日本昔話を読むことで、かつての人々がどのような生活を送り、どのような思想を抱いていたのかということが明らかになるであろう。また、日本昔話はテレビや絵本で多く取扱われており、多くの人が見たり聞いたりしたことがあるはずである。子供たちに昔話が与える影響は大きく、日本人のアイデンティティ確立における重要な役割を担っていると考えられる。このように、日本文化において重要な役割を果たしていると考えられる、日本昔話に表象されている世界観や遊びについて明らかにしていく。

研究方法は、主に関敬吾の『日本昔話大成』の中の本格昔話を用いて、昔話に表象されている年齢観やジェンダーを始めとする世界観について考察するという方法である。

【第1章】日本昔話とは

日本昔話とは伝承文学の一つであり、文字のない時代に、人々が築いた文化や知恵を次世代に語り継いで行く手段の一つであった。そのために、かつての人々の思想が大きく反映されており、重要な口碑とすることができる。また、文字で記録されてきた文化ではなく、人々の口から口へ伝えられて来た文化のため、時代にあわせてその内容は変化をしている。つまり、昔話文芸は語り手と聞き手が伝承のなかで世代を超えて練り上げてきた文学だといえる。日本昔話の系統は、日本独自の物語と、大陸から伝わり日本化された物語の二つに分けられるが、現在では一つの話に同化しているものも多い。

現在、昔話を対象にさまざまなアプローチからの研究が行われており、国際化の進む現代において、重要な研究テーマであると考えられる。

【第2章】日本昔話に表象される年齢観

現在、多くの人は老いの醜態と死に対する恐怖から、老いることに恐怖や嫌悪を抱いている。しかし、かつての人々は老いに対して、畏敬の念を抱いていた。彼らは、死を断滅と考えているのではなく、老いの中にある童に通じる生命の循環を見ていた。

さらに、子供と老人の共通点として、両者は神に近い存在とみなされていたことがあげられる。現在では子供たちの遊びである「かごめかごめ」は、以前は神を憑依させるための儀式であった。

【第3章】日本昔話に表象されるジェンダー

日本昔話に登場する女性の超人的能力や出産の話などから、女性を霊的な存在とみなし、畏怖する考え方が伺える一方で、女性を忌み嫌う思想も伺えた。その根底には女性に対する穢れの概念があることが明らかになった。血は死を導くものと考えられており、人々から恐れられていた。出産や月経に伴う流血を、科学的に証明することができなかったため、出産や月経時の女性は穢れていると考えられ、隔離されたり、さまざまな禁忌が設けられたりした。

フェミニズム論が激化する現代において、女性は穢れているという思想に対する批判の声も多いが、現代でも相撲界などにおける女人禁制という形で受け継がれてきている。しかし、地区予選を勝ち抜いた女兒が相撲の全国大会に出場することが拒否されたり、女性の大阪府知事や官房長官から優勝力士への賞の授与が拒否されたりするなどの問題が発生している。

【おわりに】

日本昔話は日本の文化形成において重要な役割を担ってきた。また、日本昔話を通じて、かつての人々がどのような世界観を抱いていたのかを明らかにすることができた。女人禁制は日本の伝統文化とする人もいる一方で、日本相撲連盟が土俵を女性へ解放するなど、新たな流れも生まれている。時代とともに、さらに日本昔話は変化していくだろう。